

# 2023 年度 第 1 回 CSR 委員会 議事録

【日 時】 2023 年 4 月 20 日（木） 13：30 ～ 17：00

【会 場】 日本代協 事務局会議室

【出席者】 大城委員長

北海道	池田	北東北	佐藤	南東北	酒井	上信越	鈴木
東関東	河合	南関東	吉野	東 京	小野	東 海	生川
北 陸	三上	近 畿	森井	阪 神	西川	東中国	山田
西中国	田坂	四 国	平岡	九州北	三浦	九州南	植村

【オブザーブ】 横山副会長

【事務局】 金澤専務、大谷部長 【司会】副委員長 【議事録】事務局

## 【委員会の要旨（確認、決定したこと）】

1. マップコンクールでの改善事例情報の収集、損保協会への報告
2. 他団体との連携取組を共有し、ブロック内で展開する
3. 趣意書のひな形作成を検討する

## 議 事

### . 挨拶

#### 1. 大城委員長挨拶

- ・年度初めの忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。本日は、昨年の振り返りと今年度の事業計画及び諮問事項の 2 つの項目について議論を進めていきたい。
- ・昨年の振り返りについては、諮問事項に対する答申を現在作成中であるが、5 月の理事会で審議されるので、本日の討議内容、皆様からの意見を取り入れたいと思っているので、各ブロックのできたこと・できなかったこと・今年度取組んでいこうとしていることを発表いただきたい。
- ・今年度の事業計画と諮問事項に関しては昨年度の内容を踏襲しながらもこれまでの私や皆さまの想いも盛り込ませていただいたので後ほど報告したい。
- ・今年度の事業計画についての論議の場は全員のベクトルを合わせる重要で有意義の場となるので皆様からの意見は重要である。活発な議論をお願いしたい。
- ・以前より direct の中でも伝えているが、一人の百歩より百人の一步は、この CSR 委員会が目指している姿であるので本日は改めてそれを表現できればと思っている。

#### 2. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に両副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

### . 報告事項

#### 1. 1 年間の振り返り

大城委員長が昨年度の委員会活動の振り返りを行った。

- ・振り返りは作成中の答申案に沿って行うが、この後の皆さんからの活動報告においても各自お願いしたい。
- ・昨年 6 月に委員長に就任し右も左もわからぬまま取り組んできたが、改めて皆様には感謝している。特に、ぼうさい探検隊においては過去に全県が目標を達成するということできなかったが、昨年度初めて達成したことは、改めて皆様のサポートがあってからこそだと思っている。
- ・昨年 6 月の委員会で皆様をお願いしたことは、通常 4 回の委員会だけでは皆様の活動情報

など織り込める量が限られてしまうので direct での情報共有を積極的に行っていただきたい、と伝えたが非常に多くの情報を共有いただいた。今回も前回委員会から本日までに各ブロックの取組を共有いただいているなど、この一年でできたことは情報共有が活発に進んだことだと感じている。1 月以降の情報で特に印象に残っているのは、東京代協 小野委員のお孫さんのぼうさい探検隊取組みが NHK の番組で取り上げられたことであり、改めて子供への防災教育や防災・減災の取組は社会から求められていることであり、これから我々が取り組んでいくうえでもメディアを活用して発信していくことが重要だと感じた。こう言った委員会内での情報の共有が、各ブロックへの周知に繋がっていると思うので継続していただきたい。

- ・昨年度できたことは、全国会議にて、ぼうさい探検隊の周知、ハザードマップ勉強会（を開催するための勉強会）を行い各ブロックでの活動につなげることができた。二点目は、前年のやり方を踏襲したものではあるが、全国で取り組んでいる事業取組を見える化することにより進捗を確認することができた。三点目は、主に兵庫県代協にご尽力いただいた防災推進国体へ出展することで防災・減災への意識が高い層にアピールすることで、ぼうさい探検隊の取組推進につなげることができたので、今後も各県で開催されている防災イベントにも積極参加していただきたい。
- ・できなかったことは、PT 推進（防災・減災に関する取組推進、ぼうさい探検隊推進）の運営が十分にできなかった。今後は委員会の中でグループに分けて討議をする場を作っていきたい。二点目はサイバーリスクに関するセミナーの推進である。昨今の状況を鑑みるとサイバー事故・被害が発生しておりリスク管理を行う我々の役割としてサイバーリスクの知識を高めていく必要があるので今年度しっかり推進していきたい。最後に、ぼうさい探検隊マップ作成はゴールでなく、スタートであるので、結果的に行政を動かしたり、子どもたちの意識が高まったという情報共有が十分にできていなかったと思う。今年度は、実効性のあるぼうさい探検隊の推進が諮問されているのでマップを作成した後の活用まで追いかけていきたい。

## 2. 各ブロック独自活動報告

事前に提出された活動チェックシート記載以外の独自活動について各ブロックから報告があった。

(九州南)

- ・direct に上がっている情報を極力ブロック内の委員長に共有することを心掛け、ブロック協議会の中でも展開した。
- ・熊本では、交通遺児募金だけでなく初めて、あしなが育英会募金にも寄付を行った。

(九州北)

- ・福岡で、ジギョケイ申請セミナーを3か所で行い目標達成することができた。
- ・佐賀ではSDGsセミナーを開催（産業廃棄物業者が講師）。
- ・長崎では県内高校で代理店の仕事を紹介する授業を行った（出前授業）。
- ・大分では、昨年ぼうさい探検隊に参加された団体へのセミナー・感謝状の贈呈を行った。また、行政に改善要望を提出し津波避難の標識の修理・表示変更が行われた。

(四国)

- ・徳島で、ランサムウェアの攻撃を受けた半田病院の方を講師にサイバーセキュリティセミナーを開催。
- ・全県コロナ前までの活動を予定している。

(西中国)

- ・ブロック内で連携ができていなかったためグループ LINE で情報共有を開始、今年度は上手く活用していきたい。
- ・広島、山口とも献血をはじめとした行事予定が増えてきている。
- ・山口支部の総会において、ぼうさい探検隊の説明を初めて行ったので、期待できると思う。

(東中国)

- ・鳥取では、「さきもりネットワーク(中海の保全活動)寄付」を実施。
- ・島根では、以前に県警を講師にサイバーセミナーを行ったところ、2月がサイバー月間とのこともありポスターが配布された。
- ・岡山では、3月に損保会から、ぼうさい探検隊で作成したマップを活用して行政を動かしたいので協力願いたいとの連絡があり、情報提供していく。
- ・来月、岡山で「晴れの国 OKAYAMA 防災パーク」が開催されるので、ブースを出展する。過去にイベントで出展したことがある代協は情報をいただきたい。
- ・昨年度は委員会 direct の情報をブロック内でも共有できたことが良かったと思う。

#### (阪神)

- ・和歌山では、危機管理課とタイアップして矢守教授を講師としたセミナーを開催し、その場で地震保険普及チラシを配布。
- ・兵庫で開催された防災推進国民大会 2022 に参加したが防災・減災の意識が高いことを実感した。近場で開催される際は、ぜひ参加していただきたい。
- ・大阪では、様々な取組を行っていて、災害があるときと災害が起こった後に CSR で何ができるのかの案をまとめて、財務局へ提出する(ぼうさい探検隊、子ども110番等)。

#### (近畿)

- ・京都では八幡市職員を講師として公開セミナーを開催。YouTubeにもアップしているので視聴いただきたい。
- ・昨年は、ぼうさい探検隊をメインに決まった行事をこなしていくだけだったが、奈良県会長から、代協活動に参加していない会員が参加したくなるような行事を企画するよう指示されているので、良い企画があれば教えていただきたい。

#### (北陸)

- ・北陸3県は出前講座を積極的に行ってきた。特に福井では自転車乗車時のヘルメット着用の重要性をテーマとした公開講座の開催を21校予定している。
- ・富山、石川では昨年開催した高校だけでなく新たに開催できる先を模索している。
- ・ぼうさい探検隊は、理事の母校・地域の小学校に活動を周知する案内を発送している(20校)。
- ・今年度は、ぼうさい探検隊のマップ作成後についてもしっかりフォローしていきたいと思っている。
- ・理事、役員間ではLINEで情報共有できているが、会員への伝え方について、良い方法があれば教えていただきたい。

#### (東海)

- ・この1年間はリアルで委員会を開催したことで情報共有が図れた。
- ・各県、トルコ地震の義援金を集める活動を行っている。
- ・三重では、今週末に防災教室を開催するので、ぼうさい探検隊のチラシを配布し情宣する。

#### (東京)

- ・2月に、水害対策をメインに防災セミナーを開催した(損保協会からも参加いただき、ぼうさい探検隊の説明をしていただいた)。
- ・ヘルプマークのチラシを会員に配布しヘルプマークの普及を図る取組を行っている。
- ・ぼうさい探検隊は、親子ともども防災意識を高めることができる取り組みであると、改めて実感した。
- ・「大田区子どもガーデンパーティー」にブースを出展し、ぼうさい探検隊を情宣する。

#### (南関東)

- ・三冠王では、冠を多く獲得できたが、取組の意義を広く伝える活動をしていきたい。
- ・今年、防災推進国民大会が神奈川で開催されるので、出展申し込みを行っている。

#### (上信越)

- ・昨年群馬代協がサイバー攻撃を受けたことから、ブロックでサイバーセキュリティセミナーを開催。
- ・群馬では、交通遺児募金を積極的に行っている。
- ・新潟では行政と連携した海岸清掃活動が復活予定。

(南東北)

- ・3 県の委員長が新任で何をどうしたらよいかわからなかったが、ぼうさい探検隊を早期に達成することができたので、他の行事にも拍車がかかった。
- ・福島では、「通りゃんせ基金」への募金活動を行っているが、ラジオ局からボランティア活動に力を入れたいのでラジオ番組への出演のオファーがあった(今後検討)。

(北東北)

- ・青森では、60 周年記念事業として三内丸山遺跡センターへ来場者用傘等雨具を寄贈。
- ・岩手は、クリーンアップキャンペーン、AED 講習会、出前授業等の活動を行った。
- ・秋田では、県民防災の日に新聞広告(協賛)、防災企画記事への出稿を行った。

(北海道)

- ・一昨年にホームページを改修し、代協活動をブログに掲載している。会議・セミナー開催もホームページ上で行い会員への情報発信を行っているが、有効活用がこれからの課題。

(東関東)

- ・コロナが明け、献血等の活動が活発になってきた。
- ・ブロック統一で、学校長宛てに、ぼうさい探検隊依頼文書を発信した。
- ・出前授業も、学校側の意識が変わってきているので、やりやすい状況になってきた。学校以外の団体にも積極的に声がけしていきたい。

## ・審議事項

### 1. 2023 年度事業計画、委員会諮問事項報告

大城委員長が、事前配信した日本代協 2023 年度 事業計画のうち実行性ある CSR 活動の展開についての説明を行った。

- ・防災・減災に資する具体的かつ実効性のある活動を展開する
- ・地震保険の情宣に努め、普及を図る
- ・「ぼうさい探検隊・マップコンクール」を活用し将来に向け安心安全な地域作りに貢献する
- ・継続活動を着実に展開する
- ・SDGs17 の目標の中で代理店が取り組める活動を模索し検討する

大城委員長が、2023 年度 CSR 委員会に対する諮問事項について説明した。

- ・実効性のある「ぼうさい探検隊」の積極推進
- ・継続活動の情宣効果向上に向けた検討(地震保険、子ども 110 番、無保険車)
- ・防災・減災の具体的取組の定着と更なる推進(他業界団体のコラボレーションの模索、SDGs の取組に向けた検討、等)

### 2. ぼうさい探検隊の総括と今年度の進め方

大城委員長からぼうさい探検隊取り組みについて損保協会への御礼があった。

- ・前回に引き続き CSR 委員会への参加感謝申し上げる。
- ・今期もスタートしており、すでに目標を達成している代協も出てきている。本日の討議では、ぼうさい探検隊が、より有意義な取組となるような論議をしていきたいと思っているので、お願い申し上げる。
- ・2/8 東京代協でのセミナーにおいて、ぼうさい探検隊に参加された OG の方のメッセージが感動的だったとの話があったので、後ほど披露いただけたらと思う。

日本損害保険協会 業務企画部 啓発・教育グループ 田中氏より挨拶があった。

- ・昨年度のコンクールにおいては、全体の半分を超える団体が代協様経由での申し込みであっ

たこと改めて感謝申し上げます。

- ・また、2 作品が入賞されているが「蓮田安心探検隊」(防災担当大臣賞)の取組が NHK の防災番組で取り上げられなど、入賞作品については現地で表彰式を行った際に新聞・TV・マスコミで報道されている。
- ・子供たちの安全意識の向上だけでなく、マップ作成に協力した大人たちも気付きを得たり、総じて、地域の安全に繋がっているのだろうと感じている。
- ・今回のマップコンクールの応募についても、引き続き多大なるご支援いただきたい。

今年度の取組についての意見交換(質問)を行った。

- ・昨年、神戸で開催された防災推進国民大会において損保協会が講演会場にて、ぼうさい探検隊の説明をしていただいた結果、代協で出展したブースへの来場者が増えた。今年度の防災推進国民大会(神奈川)においても同様な説明をされるのか。

今年度もセッションの枠はもらうが、前回のパネルディスカッション形式とは異なり、探検隊等の取組みについて紹介するタイミングが無い可能性がある。

- ・中学生は対象とならないのか。

小学生のコンクールという位置付けにしているので表彰はあくまでも小学生が対象である(件数カウントも小学生のみ)。ただ、街歩きの活動自体は年齢を問うものではない。高齢者向けのプログラムもホームページで公開している。

- ・小学校や中学校では自転車の運転について教えてくれる機会がない(左側通行? 車道? ヘルメット?)。高校生であれば出前授業等で交通安全についての講習があるが、小学生や中学生向けに大人と一緒に自転車を押して指導するしかない。

マップコンクールに自転車運転についてのプログラムは盛り込んでいないが、小学生向けに交通安全ルールを取りまとめた冊子、中高生向けの冊子を用意しているので、後日案内する(URLを連携)ので参考にさせていただきたい。

- ・雪の降らない地域では分かりづらいと思うが、積雪のある状態と雪がない状態とでは危険度が大きく違っている(雪上ぼうさい探検隊を実施し改めて気づいた)。基本的な活動期間が4月~11月になっていると、その点に気づかないことがあるのではないのか。

昼と夜の状態で危険度が違うという視点でマップを作成している団体もある。当然季節によっても危険度が違っているのは理解しているので、次回以降マニュアルを改定する際には反映させるよう検討したい。

- ・三重県で防災教室を開催する際に、ぼうさい探検隊を案内する予定だが、マップ作成は通学路だけに限られるのか。子供たちの遊び場から自宅もしくは避難場所への経路のマップ作りでも良いのか。

経路は限定していない。

- ・ぼうさい探検隊のコマーシャルなどメディアでの情宣を行っているのか。北海道では、タウン誌の裏にマップコンクールの紹介を掲載している。また、入選作品集は見ると感動するが、どこまで配布しているのか。

広告・宣伝については、コロナ以前は広告を実施していたが、コロナの影響もあり、現時点では控えている状況である。全国の小学校には応募要項と依頼文をダイレクトメールで発信している。他団体でも、機関紙等に案内を掲載するなど指導者対象に周知・宣伝を行っている。入選作品集は参加いただいた団体に送付しており、その他は関係団体に配布することとどめている。応募勸奨の際に配布することはあるが、初めてぼうさい探検隊に参加する団体がこの冊子を見てしまうと、レベルの高いマップでなければ参加できないと誤解する可能性があるため、相手に応じて配布していないこともある。

- ・タブレットを借りる期間が決まっているが季節・時間を問わず実施するには、アプリを活用していただければ利便性が上がると思う。

アプリ化については検討をしている状況。現時点では、コンクール終了直後などのマップ応募受付をPRしていない時期であってもタブレットを貸すことは可能(大々的に貸し出さずとは言えない)なので、事務局あてに個別に連絡いただきたい。

- ・マップ作成よっての改善事例があれば、大人に対しても強いアピールになると思う。  
第15回のコンクールが終了した後に、「これまでの軌跡、そして未来へ」という冊子を作成し、これまで作られたマップが、どのように町改善に役立ったかを取りまとめている。後ほどURLを連携するので参考にしていきたい。また、大城委員長から依頼のあった参加OGのコメントも本冊子に掲載されている。

(損保協会より)

NHKの防災番組で放送された「蓮田安心探検隊」の取組、タブレットを活用してのマップ作成動画については、NHKの許可を取っているのでイベント等で上映が可能である。

行政等への提言により改善した事例があれば損保協会に情報共有していただきたい。

(大城委員長より)

- ・昨年も和歌山県で道路拡張の工事が始まったり、改善の事例が沢山あると思う。代協としてもマップを作って終わりではなく、作ってから町の改善に貢献したのかを集めていきたいので情報連携をお願いしたい。

### 3. 防災・減災の具体的取組(他業界団体とのコラボレーション模索)

大城委員長からCSR活動の取組方針について補足説明があった。

- ・防災・減災に関する取組は、リスクが顕在化する前の話で、顕在化した後は我々が扱っている保険(本業)の部分である。ただ、消費者の立場からすると、リスクが顕在化する前と後でそれぞれ対策が必要な事であるので、我々の本業と切り離して考えるのではなく一緒に取り組んでいかねばならない。
- ・代協活動に積極的に参加されない既存会員の掘り起こしについて、各代協で苦労されていることだと思うので、また参加したくなる行事やイベントを企画していきたいと思う。各ブロックでの取組を共有していきたい。
- ・防災・減災の取組は代協だけでなく多くの団体でも力を入れているので、そのような団体や他業界とタイアップしていきたい。
- ・知ってもらう機会が必要だと思う。ぼうさい探検隊にしても知っていただければ参加する団体がより増えると思うので、広報委員会との連携でSNSやマスコミを積極活用していきたい。
- ・SDGsについては、いろいろな意見があると思うが、我々がやりたいと思っているのは社会が向かっている方向に同じ目線で進んでいくことが重要だと思っている。ぼうさい探検隊も目標があるから取り組むのではなく、子どもや地域の安全を守るための活動であるということ意識することで、より効果的な活動になるのだと思う。したがって、SDGsもいま社会が求めている方向だと思うので、我々としても改めて知識を深め、代理店・業界団体として取り組めることは何かを考え、できることから始めていきたいと思う。

directに掲載された他団体との取り組みについて情報共有を行った。

- ・徳島では、大型ショッピングセンターのフロアを借りて徳島県代協主催で損保協会、徳島県警交通課の協力を得て交通安全啓発活動を行う予定である(交通安全期間に合わせて)。地元の新聞にもトータルプランナーの広告と併せてイベントの告知を行っている。内容は、警察の音楽隊演奏、パトカー・白バイの乗車体験、ローカルヒーローショー、JAFによる×クイズ(子供免許証発行)など半日かけて行っている。コロナで本イベント開催は中止されていたが、徳島県代協から県警に打診したところ快諾を得た。
- ・岡山では、県警と協定を結び暴力団追放運動を行っている。岡山県代協の総会には必ず県警担当部署から出席し講演いただいている。
- ・日本代協としては相談員協会が賛助会員となっているので、各地で消費者団体との意見交換会が行われている。

- ・三重県代協では、「小学生の防災探検教室」を開催する。初めに三重県防災対策本部の職員の方から「防災・減災、ハザードマップの読み方」の勉強会を行い、その後、津波避難ルートを実際に歩いてみてマップを作成する予定である。イベント開催にあたっては、地元新聞にも取材依頼して事前の告知もお願いしている。
- ・福井県では、中島康晴氏(自転車競技選手)のイベントに自転車保険コーナーのブースを出展させてもらった。背景には福井県の自転車条例後押ししているのだろう。
- ・熊本では、防災フェスタに参画しぼうさい探検隊の情宣を行った。また、県危機管理課や市の防災イベントへのタイアップを依頼している。

(主な意見)

- ・各団体と取組連携する際は、趣意書や事業概要書を提出しているのだから、CSR 委員会でひな形を作成したらどうだろうか。特に役所関係に提案するには必須だと思う。  
趣意書ひな形作成を検討する。
- ・NHK で放送されたぼうさい探検隊の動画 URL をチラシに記載すれば効果が大きいと思う。  
損保協会経由で確認していただく。

#### 4. 防災・減災の具体的取組 (SDGs の取組に向けた検討)

SDGs の取組について情報共有を行った。

- ・東京では昨年度より東京都福祉保健局が作成したヘルプマークの啓発活動を行っている。取組自体これからなので、まずは知っていただくことを優先しポスター・チラシ配布を行っている。
- ・福島では、認知症養成サポーター講座を開催。関心が高かったのか、いつもの倍以上の会員が参加した。
- ・三重県でも支部単位で SDGs の取組についての勉強会を開催し、「知る」ことから始めようと思う。

CSR 委員会としても SDGs の取組は、まずは「知る」ことから始めたいと思うので情報があれば direct にて共有していただきたい。

### その他・閉会

#### 1. 情報共有

事務局より下記情報共有があった。

- ・今年度のコンベンション基調講演では村尾隆介氏に SDGS の取組について講演いただくことになった。著書を次回委員会でお配りするので参考にしていきたい。
- ・日本代協事務局が 5 月末移転予定(東京駅前「新大手町ビル」)なので次回委員会は新事務所での開催となる。
- ・2023 年度日本代協活動パンフレットに掲載する写真を各代協に依頼しているので、フォローしていただきたい。また、今後、活動する際は写真撮影を忘れずをお願いしたい。
- ・ぼうさい探検隊マップコンクールの進捗状況は、6/16(木)、7/24(月)、9月・10月の毎月曜日、11/2(木)、11/9(木)に損保協会から提供いただく予定。

大城委員長から

- ・委員会は原則リアル開催とするので、参加不可能な場合は事前にブロック長に報告のうえ代理の方に参加してもらうよう手配願う。

#### 2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

- ・事務局より、本日の決定事項を再度確認した。

#### 3. 横山副会長所感

- ・この 1 年間コロナの感染拡大が 2 年前をはるかに上回るなかで、実態を伴う活動を求められる CSR 委員会のミッションをそれぞれの創意工夫で乗り切っていただいた。そして、久しぶりにリアルで委員会が開催され相互にパワーを交換できたのではないと思う。今の進捗状況を踏まえ、この事業年度の総括も本日行っていただいた。委員の皆さまに感謝申し上げます。

- ・熊本地震から7年が経過するが、熊本地方を襲ったマグニチュード7.3の地震は、震度7が2回、震度6強、6弱合わせて5回発生し多くの被害を出した。日本地震再保険㈱が発表するデータでは、東日本大震災の支払再保険金は、1兆2,891億に対して、熊本地震の支払再保険金は3,906億円。これは、東日本大震災の役3割にとどまったが、これが地震再保険の支払額としては、地震保険制度発足以来2番目に大きい額であった。震災発生から10日後くらいに支援物資を積んで被災地の仲間のもとへ支援と慰問を行ったが、倒壊した家屋、ブルーシートに覆われた家屋、そしてコンビニの棚には品物がない状態、車中生活の人々…。街の景色は一変してしまっていた。
- ・景色が変わったと言えば、話は変わるが熊本地震から1か月半後の2016年5月29日、改正保険業法が施行された。保険業界、とりわけ保険代理店を取り巻く環境の「景色」が変わった。保険会社の庇護のもとにあった代理店にも「顧客本位の業務運営」が求められるようになった。
- ・我々は保険商品を販売するプロである。しかし、保険を売りっぱなしではないはず。補償にかかる事態が発生した時はもちろんのこと、その事態の前後において、プロとしての力を発揮しなければならない。安全運転の励行、自然災害への備え、ケガから身を守るための街づくり等、保険を使わなくても済む日々を送るためのノウハウやネットワークを作ることも我々の使命である。
- ・当CSR委員会は、まさに保険代理店に期待される機能を、地域の組織や仲間、そして全国のネットワークでさらに高みに上げていくことが求められている。
- ・その意味で、ぼうさい探検隊マップコンクールにおいて、初めて47都道府県代協が提出団体数の目標を達成したことは特筆すべきことであり、コロナ禍にあって成し遂げたという点において、その価値は高いものではないか。委員の皆さまのご尽力あってこそ成し得たことだと思う。また今年も、ぼうさい探検隊の推進を行っていただいているかと思うがすでに和歌山県代協では目標を達成されている。ぼうさい探検隊のさらにその先には「マイタイムライン」の普及もあり、その啓発活動も活性化していくことも必要である。
- ・一方で、昨年度の実態調査において「ぼうさい探検隊」の認知度が28.8%という調査結果を我々は真摯に受け止めてはならない。代理店としての使命を具体的な活動で果たしている事業が、まだまだ会員に知られていないのは残念なことでもある。「やっている」ことから「やらなくてはならない」ことへの変化は、並大抵なことではない。しかし、会員に対してこの事業の目的、CSR委員会の活動そのものを知ってもらうための創意工夫も必要だろう。
- ・従前より情報伝達の重要性や「一人の百歩より百人の一步」の話をしてきたが代協活動そのものだけでなく支部の活性化、事務局の充実により情報伝達がされるのだと思う。
- ・また、本日の会議でも情報共有した「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)2023」は、産・官・学に非営利団体等が参画し、後援、パネルディスカッション、展示、ワークショップで災害リスクに直面する我々に参考となる示唆や教訓を与えてくれる機会でもある。防災力向上は日本代協会員の全員が目指すところでもあり、我々にできること、伝えていかねばならないことを真剣に考えていくことも使命だと考える。委員各位の発想力でぜひ検討していただきたい。
- ・地方創生、安心して暮らせる街づくり、環境保全等、一昨年あたりからにわかに言われているSDGsやカーボンニュートラル、脱炭素につながる環境保全の意識の高まりがある。社会の要請に応えるのが代理店だと思う。我々の現業にも通じるこの活動について、アンテナを高く張り、視野を広げ、新たな取組にチャレンジしていくことが求められていると感じた。
- ・本日の会議を通じて得られた情報を各代協にしっかり伝えていただき、そして上がってきた会員の声をフィードバックしていただきたい。
- ・CSR委員会にたゆまぬご尽力いただく委員の皆さんには心から感謝申し上げますとともに、各代協の活動がさらに活性化されることを祈念して会議の所感とさせていただきます。
- ・本日は大変お疲れ様でした。

以上



次回開催日

第2回 CSR 委員会 2023年6月23日(金) 13:30~17:00

第3回 CSR 委員会 2023年9月19日(火) 13:30~17:00

第4回 CSR 委員会 2024年1月19日(金) 13:30~17:00